



さくら並木

『志を高く持ち続ける』決意

大河原町長 齋 清志



毎年立春の頃に、大河原中学校の伝統行事として立志式が開催されています。全国に先がけて半世紀を越えて実施されてきましたが、今年も立志生の皆さんの大変立派な姿に、感動で心が震える思いでした。昔の元服となる年齢を迎え、自分としっかり向き合って、希望を持って将来を考えることは大事なことです。それは、自分自身を大切にすることに繋がります。『自覚する』という大人になるための第一歩になることでしょうか。

さて町民の皆さんは、アイリスオーヤマの東北創業の地が大河原工場であることをご存知でしょうか。この会社の大山健太郎社長は、『志を高く持ち続ける経営』が革新成長する生命力に満ちた組織体をつくったと話されています。そして、『今日の安泰は明日の衰退、これで完成と思つたら終わる』とし、上をめぐし続けた大切さを説いています。19歳のときに一家の大黒柱の父親を亡くして、8人兄弟の長男だった社長は進学を諦め従業員5人

からずっと仙台出身のフィギュアスケーター羽生結弦選手に注目してきました。直前の大怪我を乗り越えて、ぶつつけ本番で望んだ五輪でしたが、見事に日本選手第1号の金メダルに輝きました。天性の素質や強い精神力の持ち主というだけで、この日本中を感動させる偉業を成し遂げることができたとは思えません。『努力は嘘をつく、でも無駄にはならない』などの数々の名言を残しているようですが、羽生選手をここまで成長させた裏に、『志を高く持ち続ける』ことを忘れなかつたことが隠されているのではないのでしょうか。強さには、『志』に繋がる理由があるように見えるのです。

『高い志を持ち続ける』ことに素質や環境の違いは関係ありません。自らの強い意志と『何のために、そして誰のために』ということにどう答えを出すのかだけなのだと理解しています。私も『志』を持ち続けて、町政の発展に向かってひたすら努力を重ねる決意を改めてしたところです。(2月18日記)

駅前図書館今月の新刊

まちの本棚

一般

■はかどるごほん支度

高木 丞み/著

【幻冬舎】

栄養満点で効率的な献立の作り方、食材の半作りおきレシピ、かき揚げの作り方、プロの料理家としての技術・知識と、現役の母親としての試行錯誤の末の工夫を駆使して考えた、ごほん支度がかかどるの方法を紹介しています。

小説

■風神の手

道尾 秀介/著

【朝日新聞出版】

彼／彼女らの人生は重なり、つながる…。章を追うこと出来事の意味が反転しながら結ばれていく。数十年にわたる歳月を、ミステリーに結晶化した長編小説。『小説トリッパー』『朝日新聞』掲載を単行本化。

児童

■ほくらの山の学校

八束 澄子/著

【PHP研究所】

学校にも家にも居場所(いばしょ)がないと感じはじめた、小学4年生の壮太(そうた)。ある日テレビで「山村留学(りゅうがく)センター」を知り、小学生13人が在籍(ざいせき)するセンターで暮(く)らすことを決意(ごうい)し、大自然を舞台(ぶたい)に成長していく小学生たちの物語。

絵本

■あかいふうせん

山田 和明/作・絵

【出版ワークス】

あかいふうせんをもったおんなのこが、バスにのりまわした。でも、うっかりてをはなして、ふうせんは、そのかなたにとんでいってしまいました。ふうせんさがし、バスのたびがはじまります。バスには、つぎつぎとどうぶつたちがのりこんできました。うさぎさん、ペンギンさん、ぞうさん…。さいごに、みんなで見つけた「あかいふうせん」とは？

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

熱い想いよ届け！
～伝統の立志式からの創生～

大河原中学校 中大最大の伝統行事、立志式。自分たちの立志に込めた熱い想いをどうすれば伝えることができるか。2年生が考えに考えた末にたどり着いたのがオリジナル記念合唱曲「夢輝いて」の制作。198名の未来へ想いを紡ぎました。たくさんの人に愛されて生きてきた／その軌跡



を僕は覚えていよう／壁にぶつかり涙流した時／背中を押した君がいた…。「声じゃない。想いを届けるんだ。」まだ心が一つじゃない。意見がぶつかり、悩み、それでも乗り越えようと苦悩した練習の日々。そして2月2日えずこホールいっぱい2年生の想いが響き渡りました。そこにいる全ての人が熱いものがこみ上げてきた瞬間でした。

金ヶ瀬中学校

金ヶ瀬中の絆を胸に
～中学校生活最後の調理実習～

1月19日、3学年の生徒が家庭科の授業で中学校生活最後となる調理実習を行いました。メニューは班ごとにクレープ、プリンそして大福など生徒のアイデアをもとに決められました。

10年以上という付き合いの生徒も多い3学



年の鉄壁のチームワークで手際よく作業し、食べきれないほどの「作品」を作り上げました。そんな3学年の生徒たちも3月8日に卒業式を迎えます。行事や部活動の大等等で金中をリードしてきた生徒一人一人が、これまでの学びを活かして新たなステージでさらに活躍することを願っています。

暗唱大好き

シリーズ②③

南小編



「暗唱朝会」
～凛々しい姿で～

「ぎつねうどんを仕てるかい。ただのうどんじゃないんだよ。」
「ここに川がある。おおかでやさしい川がある。」

朝の会や国語の時間には、教室から元気な暗唱をする声が聞こえてきます。暗唱読本「寿限無」のなかから「今月の暗唱」を決め、毎日暗唱に取り組んでいます。

また、南小学校では、各学年が年2回、全校の前で発表する「暗唱朝会」を行って、これまで4回の暗唱朝会を行ってきました。2学期の終業式には、2年生と5年生が発



表しました。2年生は「ぎつねうどん」と「月の異名」、5年生は「祭り」を暗唱しました。どちらの学年も緊張しながらも自信に満ちた表情で、たくさん練習してきたことがよく伝わる素敵な発表でした。どの学年も、暗唱朝会に向けて練習を重ね、とても素晴らしい発表を披露してくれました。これまで頑張ってきたこと、たくさんの拍手が子どもたちの自信へとつながっています。また、他の学年の発表を聞くことで、「僕たちも、あんな風に暗唱できるようにしたいな」「自分たちも頑張ろう」という憧れや暗唱への意欲にもつながっています。